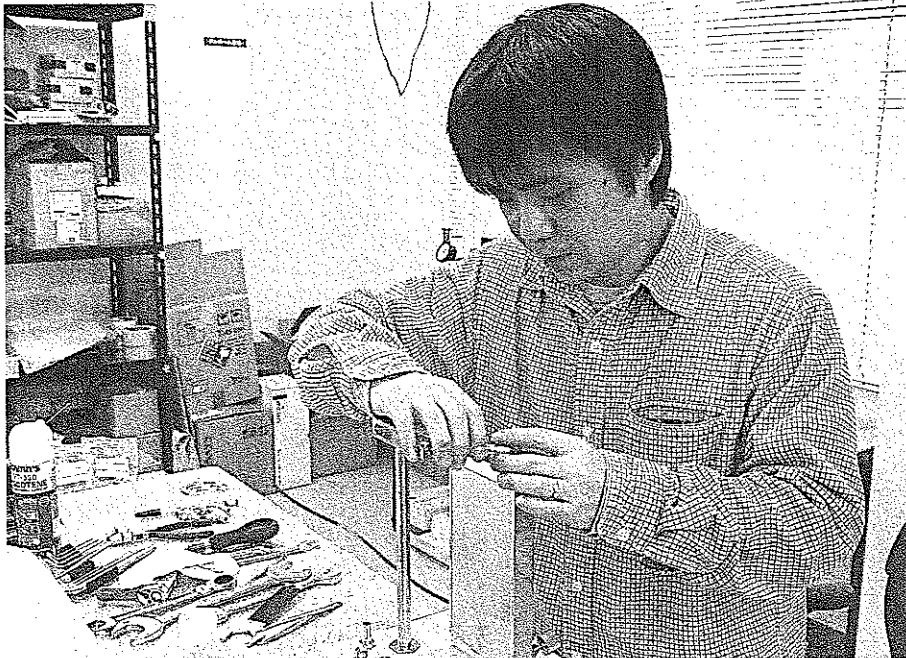
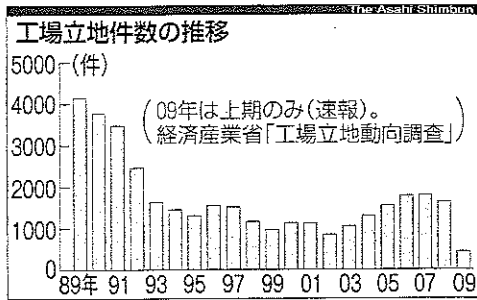


誘致から企業育成へ

雇用をつくる②

働く

火曜日



医療機器を組み立てる従業員。昨年7月までは基板の設計を担当していた＝福島市のホロニック

「お見合い」の場となる国内初の展示会や試作品を作る際の資金援助などだ。「企業誘致も大事ですが、地域の企業育成に知恵を使いたい」と産業創出課の石橋毅さん。薬剤師の免許を持ち、薬事法の規定に合わせた生産設備作りを支援している。

基板設計のホロニック(福島市)は昨年7月、医療機器製造に業態変更した。4年前、県からの紹介で、医療機器メーカーから人工呼吸器の図面化を依頼されたのがきっかけだ。斎藤宏社長自ら試作品を作り、改良を重ねた。そのさなか本業の基板設計は08年秋の経済危機の直撃を受けた。メーカーの発注が激減、売り上げは6割減り、09年4月から3カ月、国の雇用調整助成金で雇用を守った。「全くの異業種で迷いもあった。だが、会社を守るために舵を切るしかなかった」人工呼吸器の製造は順調で、開発した機器で特許も出

職場のホンネ

「あの人は私より暇」「あの人は遊んでいる」など陰口が絶えず、難しさを痛感した。(神奈川県 求職中 40代女性)

残業分担の難しさ

以前の職場では、部署全体の残業軽減のため退社時に必ず同僚に声をかけ、残った仕事を分担する規則があった。業務の違ひからか、自分は昼食時間もないほど忙しく働いているのに、おしゃべりばかりで昼も長くとっている同僚の仕事を手伝った。毎晩何時に帰れるのかわからず、うんざりした経験がある。自分の担当外の仕事を時間外で手伝う規則があると、「あの人は私より暇」「あの人は遊んでいる」など陰口が絶えず、難しさを痛感した。

顧客だ。新たに社員も3人採用した。ただ、楽観はしていない。医療機器産業は安定しているが、国内需要だけでは成長に限界があるからだ。昨年末の忘年会。1人もクビを切らなくても、社員長の顔をみながら、斎藤社長はゆっくり酒を飲んだ。「これだからが正念場。でも前を向いて進みたい」(諸妻美紀)

年(11月末時点)はわずか12に落ち込んだ。かつて、地方自治体にとって誘致は経済低迷から脱する起死回生策だった。大企業が立地すれば、下請け企業も移ってくる。さらに、大企業との取引を狙う地場企業が競い合うことでレベルが上がり、自信もつく。自治体間では、進出企業への補助金の上積み競争も起きた。

自治体、内需型へ転換を支援

え直す時期に来ている。08年秋の経済危機では、愛知や静岡、栃木、大分など自動車や電機などの企業誘致に成功していたところほど、「派遣切り」などの影響を受ける皮肉な結果となった。東北6県の中で最も非正規労働者の失業率が高い福島は、景気の影響を受けにくい、内需系の産業に活路を見いだそうとしている。

半導体・自動車の工場集積を進めてきた福島県は、05年に医療産業集積プロジェクトを立ち上げた。もともと、内視鏡生産で世界トップシェアのオリンパスの工場などがあり、医療系企業の育つ素地があったが、薬事法改正でメーカーが医療機器の製造を外注することが可能になったことが追い風になった。

半導体や自動車部品を作る技術を医療機器製造に生かすのを支援し、地場企業が参入できるように県は様々な仕掛けを作った。メーカーとの

ご意見や「職場のホンネ」へのご投稿は連絡先を明記して〒104-8011 朝日新聞労働グループまで。ファクス03・5540・7354、メール t-rodo@asahi.com

シロアリ

シロアリの女王は、十数年は生きることがわかっている。1000年くらい生きるものもあるという説があるよ。1日に3万6千個も卵をうんだ女王もいるぞうだ。

1面に「しつもん」 11

！がん相談ホットライン！

1月16日から、「がん」のご相談が夕方6時まで、また土曜日でも受けられます。

平日がお勤めて忙しい方に、ご相談時間を2時間拡大します。また土曜日でも同じ時間帯でご利用いただけるようになります。

03-3562-7830

無料電話相談 月曜～金曜 10:00～16:00
※1月16日から 月曜～土曜 10:00～18:00

がん相談ホットライン専用

財団法人 日本対がん協会

がんに関心のない社会をつくる。